

新人合宿報告書



(SAC).

信州大學山嶽會

—目次—

・ 記録 & 紀行文

・ 各人の反省

・ 係の反省報告

825日

135 〇 〇
141 〇 〇
147 〇 〇
2:45 〇 〇
6:00 〇 〇
天場着 (白沢合)

今日は新日合宿の記念すべき第一日目でした。夕クシ
降リたときから雨がポツポツと降り出し私たち一年生
不安にさせるのでした。キスリーブを背負って林道をしば
らく行くとは保トンネル、トンネルの中で休憩しました。それから
登山道を沢をいって登って行きます。するといつしか雨はやみ
青い空から太陽が顔をだし快晴となりました。川の水も
とてもきれいでなかなか良い気分です。そして鯉岩留小屋。
そこからはだんだん登りがきつくなり重い荷物がこたえます。
やがて少し雪が出てきて最後のやたらときか急坂を登り
るとそこが徳本峠でした。ここは見晴しが良く、徳高方面の
山々がとても良く見えました。休憩して山の説明を聞いたあと
今度は下りです。たくさん雪のある所をしばらく下りそれから
登山道をしばらく行って川を渡った所がテント場でした。

(記、内田)

5月26日

TS 8-05

横尾 BC 8-55 ~ 7-20

新川橋 7-40 ~ 7-20

横尾 BC 9-50

この日も俺は死んだ。俺は今日こそはあの地獄のような歩きから解放できると思っていた。しかしこの夢もはかなく、また起きてしまった。またもや長時間の山歩きであった。だが俺には何かかなる希望があった。それは横尾BCについてからの少しの休けだったのである。俺は疲れ果てた体にむちうて歩いた。そしてやがてのことばで横尾の川沿いの石ころ地帯に突入したのである。もうすでに遅かった。この地点で俺の体は限界に達していったのだ。その上歩きにくい石ころと、Sun Sunと照る太陽。「もうだめだ、みんなとおくれてここから休みたい」と思った。がそう思う間に横尾BCに到着していた。「また俺はとうとうこの苦難に打ち勝つのだ」という満足感にふたりきっていた。しかしここで考えられないような第1の出来事に直面したのである。なんと上級生は休む暇もなく目前にそびえる岩のような山に登っていくではないか。「な、なんとこの体かだ、俺はまた拾いもろ手をやめてぼう然とみつめていた。すると「速い」とあけられた様子で内田がこけた。他の下級生も同調した。しかしここで最も驚くべき第2の出来事に直面したのである。この前に生まれてから18年間言ってきたことのない奇怪なことばをこけばなければならぬ。義務を課せられていたのである。「あらよ」これは何を意味するのであろうか。下級生の数人が「でええ、ちよ」と返答してくる。と聞いていたので一種の山の遊びではないかと思っていた。そして俺達下級生は大声で「あらよ」とこけた。するとな、なんと上級生が山から落ちてくるではないか。そしてこれが驚くべき第2の出来事である。俺はここであの人達の精神状態をうたぐった。彼らには死というものがこわくないのであろうか。俺はここで山岳会にはいるとたら命がなくなると思いやめようかと思えた。そしてこの日は、一日中恐怖と不安の気持ちで過ごした。課せられた仕事をせせげた。しかし俺は明日をむかえることがこわくて眠れそうもないと思っていたが知らぬ間にねむっていたのである。(加藤靖治)

5月27日(水) 本隊

メンバー: L 角谷, 森, 水谷, 下田, 宇田, 瀬川, 中村(幸),
内田, 加藤, 作道, 吉岡, 下平

4:00 ① BC 発

5:45 瀬沢ヒュッテ

10:30 まで 雪訓

11:30 ① V VI のコル

11:55 VI 峰

12:55 瀬沢ヒュッテ

14:15 BC 着

初めての雪訓でたいへん疲れたが、すばらしくいい天気であつた。
しかしおかげで顔が痛くなった。

5/27 北尾根 ~ 奥穂 上, 加藤(清), 小野, 豊田

① 4:00 B.C 6:30 5.6 のコル アイゼンをはずして登るが、また

おぐにつける 8:00 5 峰 9:00 4 峰 4 峰の登りで加藤くん

がけがしたため 3.4 のコルから下降 9:15 3.4 のコル

10:45 雪訓パーティと小野, 豊田が合流 5.6 のコルへ

以下雪訓パーティと同じ

・途中から下降したのは残念だったが、天気が良くて楽しかった。
やはり、落石には注意したい。

5/27. 北尾根

B party L 三野, 飛田, 中村(9).

4:00 ① BC 発

6:30 ① 5.6 のコル

7:15 ① IV 峰.

IV 峰は、淵沢側を巻くが、
浮石が多く、後籠パーティーに、
落石を命中させてしまった。

1P ザイルを出した。

8.55 ① 3.4 のコル

↓ 3P {
1. 三野 Top 凹角状より取り付く。
2. 出足がややむつかしい。
3. 飛田 Top 今二状をテラスから登る。
おもしろいのは、ここだけ。

12.20 ① 前穂本峰

2.40 ① 白出のコル

4.35 ① BC (中村記)

※ 取り付きまで遠く、III 峰で遊んでから、
BC まで、さらに遠い。思わぬ気が遠くなる。
楽しい(とんでも)ルートでした。

5月28日

奥穂ア9,7

△ 鮎 下田 加藤(調) 三野 瀧川 中村(調) 小野 豊田 飛田
1年生

BC	4 = 00	○
涸沢ヒュッテ	5 = 40	○
	6 = 00 ~ 9 = 40	雪訓 ①
奥穂	12 = 10	○
涸沢ヒュッテ	14 = 15	○
BC着	15 = 30	○

午前中は天気が良かったが昼頃からガスを
きこ奥穂頂上では、ほとんど視界がまかす
残念でした。尻やードは冷たい / 尻が ----

(音図)

北条 新村ルート

△ 水谷 中村(工)

4 = 40	涸沢麓 ①	1p 25m III	水谷
5 = 30	5.6の コル ①	2p 25m III	中村
6 = 30	D沢・C沢始	3p 35m III	水谷
8 = 00	取付	4p 25m III	中村
9 = 30	はな松行入	はな松行入	
12 = 45	終了 ①	5p 30m IV・A ₁	水谷
14 = 00	3.4の コル	6p 30m IV	水谷
14 = 50	涸沢 ①	7p 35m III	中村
15 = 40	" 麓		
16 = 25	横尾 BC		

終了後北尾根へ
トビース

私は 27日の夜、夢を思い出すと今でも腹が立ってくる。でもそんなことは忘れることとした。朝、涸沢ヒュッテのトイレで快適なくしてしまして、テニ場に戻ると時計はすでに4:30 みたいな気がして視線を感じながらアイゼンをつけて5.6のコース、4.5のコースで下る。朝もはやいというのに落石が雨あられのように降ってくる。11時ごろ、ここで取付で雪の上から7.6のコースを降り、何にもおもしろくないコースに登り、はなれテラスはキック、キック、キックの鬼でゆくり休めず。11時は7.7のコースを越えようという気合で11.7のコースはアイゼンでA、7.7のコース、なかなかおもしろい四峰は落石が多くて11時ごろ、と11月1日でした (中村幸)

5月28日、IV峰 松高ルテ

△ 森 安田

前夜から水谷、パーターと涸沢ヒュッテでピバーク

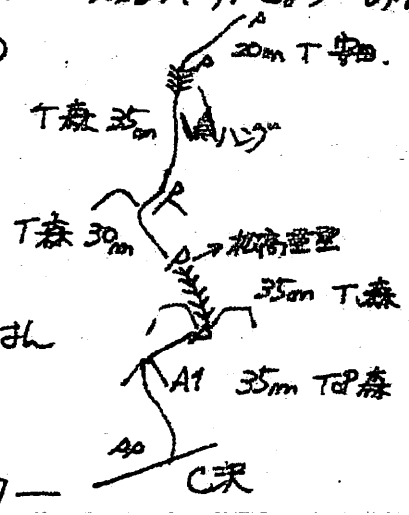
- 3:15 起床 ⊙
- 4:35 涸沢ヒュッテTS発 ⊙
- 5:30 VIIのコース ①

IV峰頭をこえてIVVのコースより下降、上部から落石が多くこわかった。

- 6:35 インゼル下部 ①
- 7:30 取付 ①
- 5P
- 11:30 終了
- 12:25 北条 新村 終了して水谷パーターまで みる。

- 14:10 IIIIVのコース ⊙
- 15:00 涸沢ヒュッテ、T森 35m
- 16:30 BC

松高の壁をまっとうしてルテへはまるとは。ザックが重く、積雪期の登山のむずかしさが身にしみた。



(安田) 7 C末

5/29 (木) 本隊

BC 4 = 05 ◎

涸沢 5 = 55 ●

9 = 30₃₀ 待機

9 = 30 ~ 10 = 30 雪訓

7.8のコル 11 = 15 ●*

BC 13 = 30 ●

この日は北極防雪
の予定でしたが天候
が良く残ったので、
北尾根 7.8のコル
へ向かいた。

この日は、グリセードを
中心に雪訓をした。

5月30日 (金)

● 10 = 00 沈殿 決定

屏風岩 雲稜ルート

系 山 谷 豊田

- ◎ 12:00 BC 登
- ◎ 12:45 T4 取付 IP 岩が濡れて滑りやすかった
1ルンゼに石がほとんど落ちてきていた
- ◎ 1:20 取付)2P
- ◎ 1:20 終了)4P 体柔ビラリ
- ◎ 3:00 屏風の頭 雪がすくなく出てくる。景化コルから海へ
木谷パーターと合流
- ◎ 4:40 BC 着

T4尾根が濡れていていやだった。朝日を浴びながら
の登攀はすばしかなった。(豊田)

雲稜ルート

(豊田 浩太郎)

丸木橋を四つん這いで渡り、T4尾根に取付く。岩が濡れていて滑りそうと怖い。木谷さんパーターが登ってくる間に、太陽が出てきた。F47J。1ルンゼではピョコ、ピョコ石が落ちていた。雲稜に取付。重い体を引上げながら、思わず「アメンゴ」と叫んでしまい、A0を使いIP目を登った。次はリードだ。おおぞ岩アスまで行けるだろうか。A0を使って登る地と悪い。リードを始める。これはまずい。アタリビナクルまでセヒヒをアスまでには入らなく行った。ランナーの取り方が悪かったのか、ザイルがうまく流れなかった。ここからはA1だ。途中で3mm シェリフが二本に伸びているのかと思う。おじりいた。トラバースは非常に怖かった。ザックを投げ捨てたくなった。

6月1日 (日)

BC 8 = 50

徳沢 10 = 25

上高地 12 = 00

途中 奥又白谷 山合 山合
を する

— 各人の反省 —

今年は新人が5人と少なく雪訓等の指導もそれほど多くな
りませんでした。毎日の行動に余裕ができて、反面登攀隊は上級生の
奥力不足から時間がかかっていた。今後の課題である。とくに1年生
を加えて新しいメンバーの山岳会というものが、やはり形だけでした。今後
は夏山にむけて、中身をしっかりとつけていかねばならない。

(角谷)

一番印象的だったのは合宿中に沈殿日があったことだった。GW合宿
の事故のあとだった。時間的なこと、下級生のこと。で軽い恐怖感があった
が、無事だった。一年については今年はずっと乗ってあげたが、並の
並の上という感じだ。山の面白さ、楽しさがわかるのは、これから。13日
はこれを経験して、一歩一歩成長してほしい。(水谷)

1年生はよくやったと思う。上級生は登攀は何回か行けて、おれ
た。天候の不慮で北穂に行けず、1年生でエドカに残念だった。
2年生はやる気があって非常によかった。

1年間のスタートとしては、よく出来た合宿であったと思う。

(加藤清里)

福沢のヒールワークのとき 加圧 減圧 呼吸 注意 集中

1年生はよくがんばった。山登りに慣れた。山登り要領を教えることが
今年の山行では手を抜かず 熱情と平気で楽しく 仲間を引っ張った。
2年生も 去年より一歩 前進した。山登り要領もよくわかってきた。計画
もよい。私は 7月2日を 治す。

(三野)

今回の合宿は 自分自身で 頑張らなければならぬ。山登り 注意
を 持続 できる ように 心がける。また 後半 少し 体調を 崩し 気味だ。
1年生、2年生は よく がんばって くれた。今後 自分の 弱点を 克服
する ように、さらに 努力 して 下す。

(三野)

体調の かなり 良かった。前半、行動の 原動力 とならねばならぬ。2年生としての
役目を 満足に 果たす ことが でき ず かつ かつ、1年生の Demonstration には
たより なく、あちこちで 口が 出て きて、技術的、体力的に 2年生 失格 レベル
である ことが 始めて よく わかった。これでは 指導力 は ありますか、判断力 など 総合
的能力 など ありますか なく、課題 は いろいろ 多く なる こと して いる。後半 かなり
いい ところ まで 来た。

(三野)

2年生 として 合宿 を 引 げ、て いく ほど の こと は 何も 出来 なかった。特に 体力 面
で できなかった。登攀 力の 高さ に 少々 ショック を 受 けた 感 があり、
岩 トシ は げ みたい。

(小野)

徳本 越え の とき 足 が ぶ っ ぱい 1P 下 の み にな り 迷 惑 を 加 へ て しま った。合宿 全体
を通 じ 体 力的 に 子 だ ん だ ん だ っ て 感 じ た。1年生 への 指導 を 的 と せず、わ かり や
い 指導 で なる こと だ と 思 っ た。た だ 適 切 に、積極 的 に 指導 し た ほう が よ かった と 後 で 感 じ た。
今後、合宿 推進 の 中心 と なる ほう が 好 みたい。

(飛田)

1年生 を 迎 えて、2年生 として の 山 行 だ っ た が、体 力 不 足 を 感 じ ず とも 山 行 だ っ た。
昨 年 同 じ 頃 体 力 不 足 を 感 じ て いた こと が 再 び 同 じ 反省 とい う の は 残念 だ。1年生 への
指導 は 中 々 入 っ て いた が、自 分 の 思 っ て いる ほう に 教 える こと が でき ない と思 っ た。
登攀 の 時 の 判断 力 不 足 を 感 じ た の で、岩 トシ は げ び こと ば いう。全 体 の
道 は 日 高 へ !!

(中村 幸)

今日の合宿は少しは体力的に余裕がもたせられたと思っていたがなかなか大変だった。1年ほどはしっかりと指導してやりたい。最後のケリは辛かった。
(豊田)

体力、技術力共にまだまだ不足を感じました。このからの山行にむけて、この新人合宿を一つのステップとして指導力をふまえてほしいと思います。一年生はよくがんばりました。
(安田)

雪上訓練の時などうまくいかず先輩方などに迷惑をかけた。入山前からかぜをひいてほい。山行中もせきなどがおたら出てきた。山行後もおとと体調をこわしてしまつた。山行前にもおとと体調をこわしておいてほいと思つた。あと自分の体力のなさを感じ、山行前のトレーニングを大切だと思つた。
(内田)

初めて1週間という長い期間の山行に参加し、しかも毎日、雪訓、歩行を驚くほどのハイペースでこなすことになり、自分の体力のなさを、技術のなさを、認知と熟悉しました。しかし、体態のよさにほんやりと目にした涸沢の美し、穂ヶ岳の山頂からのすばらしい景観に感激でしてとてもよかったです。これからは、あの感激を心の糧にして早く先輩方に追いつくためにトレーニングに励むことと思つた。
(下平)

先輩達上級生にふけていかず、自分の体力のなさがよく実感できました。体態のよさをよく記録が最初のうちとれてきたが、疲れてくるとなると、なげき、これからは、しっかりとしようにしたい。今回の山行は、いままでは、ほんやりで、合宿ももう少し体力をつけ、山行に余裕がもたせようにしたい。
(吉岡)

— 係の反省・報告 —

Essen.

Essen計画に関してはそれほど問題はなかったと思うが、Essen費が非常にかさんだことと大変反省している。レーションが多すぎるという意見もあったが、もっとへらしてもよかったと思うので、それは、買入量をあやまたためて、反省している。Essen費の縮小に関してマカボクをもっと増やした方がよいという意見もあったが、今回はEssen係の個人的な感情で1回のみとらた。今回の結果をふまえて次回がんばりたい。

(小野)

装備

- ・登攀パーティーの装備、特にシュリングが足りなかった
- ・BCでの装備のチェック、特に返却時のチェックをしっかりと行った
- ・ガスはマクで飯を炊いたので少なく済んだ。

(飛田)

消費量	ガリリニ	9000 cc (97cc/人日)
	メタ	87 cc (12.4%)
	ローリ	4本 (0.57%)

医療

カセやくつすいには悩まされた部員が多く、特に一年生は常に下痢が止まらなかつた。大きな行動力低下とは今回は結び付かなかったが、余り出回る場面でのカセやくつすい持参のハンカチは精神的にも体力的にも影響は大きく、事前の対策も含めて、おかしな部分に注意を要すると思う。

瀬川

会計報告

収入

198,000 (11,000 × 18人)

7,000 (OBカンパ)

4,000 (古賀さんより)

計 209,000 -

収出

127,224 (Essem費)

9,456 (装備費)

6,740 (酒代)

2,400 (酒楽テン場代 300 × 8人)

22,960 (行きタフシー代)

40,000 (帰りタフシー代)

計 208,780

残金 220 -

・ Essem費 1人 1日 883円

・ 装備費 1人 525円

最後の帰りのタフシーにはおろし金 4,000 だけ打って
しまい、遺言から借りておいた。こいつは会計係のミスで(た
まに、Essem費はたか多かた、個人負担はたか多
たか多。

気象

天気図がうまく描けず2年としてはずかしかたです。用紙が少なく
 一年生には5x11(120)とした指導ができませんでした。また12月3日の5x11
 19の0500から、その研究は行いたいと思っております。

1,000 (10月11日)	1,000 (10月11日)
2,000 (10月12日)	2,000 (10月12日)
3) 20,000	3) 20,000

27,224 (Essen費)	27,224 (Essen費)
7,456 (教科費)	7,456 (教科費)
8,240 (酒代)	8,240 (酒代)
2,400 (酒代) (酒代 3000 枚)	2,400 (酒代) (酒代 3000 枚)
22,960 (17日 27日 代)	22,960 (17日 27日 代)
40,000 (17日 27日 代)	40,000 (17日 27日 代)
202,980	計 202,980

冷 220 - 冷 220 -

em費1人1日 883円 Essen費1人1日 883円
 酒1人 525円 酒1人 525円

10月27日 10月27日 45,000円 10月27日 45,000円
 10月27日 10月27日 45,000円 10月27日 45,000円
 10月27日 10月27日 45,000円 10月27日 45,000円

(各人の反省の追加)

よく、にらして生まれてはじめての山行で合宿前から体力
面、精神面でかなりの不安があり、悲しくも新人合宿
にまわってその弱さがもうにでてしまった。そしてなんと
いっても残念なことは、槍ヶ岳の穂高のような3000m級の
山に登って高いところからの景色を楽しもうと思っ
ていたが、あまりにその疲労でその余裕がなかったこと
が心残りである。これから山での経験を増やし、
体力UPをはかて、余裕があり、楽しい山行ができるように
精進したいと思う

(加藤靖治)

1986

信州大学山岳会

S·A·C

新人合宿報告書

昭和61年7月4日発行

印刷・松本

